

浜の活力再生広域プラン
(第3期)

1 広域水産業再生委員会

組織名	佐賀県玄海地区広域水産業再生委員会
代表者名	会長 川寄 和正

広域委員会の 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県玄海地区地域水産業再生委員会(佐賀玄海漁協協同組合、唐津市(水産課)、伊万里市(農山漁村整備課)) ・屋形石地区地域水産業再生委員会(屋形石漁業協同組合、唐津市(水産課)) ・外津地区地域水産業再生委員会(外津漁業協同組合、玄海町(農林水産課)) ・仮屋地区地域水産業再生委員会(仮屋漁業協同組合、玄海町(農林水産課)) ・大浦浜地区地域水産業再生委員会(大浦浜漁業協同組合、唐津市(水産課)) ・佐賀県水産課
オブザーバー	唐津市水産課、伊万里市農山漁村整備課、玄海町農林水産課、佐賀県流通・貿易課、佐賀県玄海水産振興センター

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<p>佐賀玄海地区(唐津市、伊万里市、玄海町/佐賀玄海漁協、屋形石漁協、外津漁協、仮屋漁協及び大浦浜漁協の管内)</p> <p>(経営体数 484 経営体、漁業者数 730 名)</p> <p>○海面漁業(418 経営体)</p> <p>いか釣: 78 経営体、はえ縄: 39 経営体、小型底びき網: 14 経営体、ごち網及びいわし網: 20 経営体、採介藻: 89 経営体、大規模定置網: 2 経営体、小規模定置網: 22 経営体、その他の漁船漁業: 154 経営体(刺網、一本釣など)</p> <p>○海面養殖(計 93 経営体: 漁船漁業等との兼業含む)</p> <p>魚類養殖: 30 経営体、真珠養殖: 7 経営体、かき類養殖: 56 経営体</p> <p style="text-align: right;">(2023 漁業センサス)</p>
---------------------------	--

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

◆地区の概要

- ・佐賀県玄海地区は、佐賀県の北西に位置し、漁船が操業する漁場は、壱岐水道を中心に五島・対馬海域に及ぶ外洋性漁場、東松浦半島や玄海諸島周辺の沿岸漁場、唐津湾・伊万里湾等の内湾漁場から成る。

◆地区の現状・課題

○漁業

- ・いか釣漁業、はえ縄、底びき網、ごち網、いわし網、採介藻及び定置網漁業等が営まれ、漁獲対象魚種も多種にわたっているが、いずれも小規模であり、その漁獲物は少量多品種である。
- ・令和5年度の玄海地区の生産量は、海面漁業が2,336トン、海面養殖が1,375トンである（農林水産統計年報）。生産金額は、海面漁業が18億円、海面養殖が16億円程度である。
- ・当地区は各浜々に漁港が存在しており、第3種漁港が2港、第2種漁港が6港、第1種漁港が19港となっている。
- ・資源の減少、魚価の低迷、燃油の高騰をはじめとする漁業経費の増加により、漁業経営は厳しさを増し、漁業生産基盤の弱体化が否めない。
- ・このような中、新規漁業や、カキ養殖などの新規養殖業、また、加工や飲食店など、複合的な漁家経営に取り組む漁業者は増加している。
- ・近年、冬季を中心に定置網漁業等によるクロマグロの混獲が散見されるところである。WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）で合意された保存管理措置に基づいて設定されている我が国のクロマグロ漁獲上限を遵守するためには、当該地域の定置網漁業等を休漁せざるを得ず、かかる事態となれば、本広域浜プランに掲げる、後述する集荷機能及び市場機能強化の取組に支障を来すこととなるため、クロマグロの混獲回避が必要となっている。

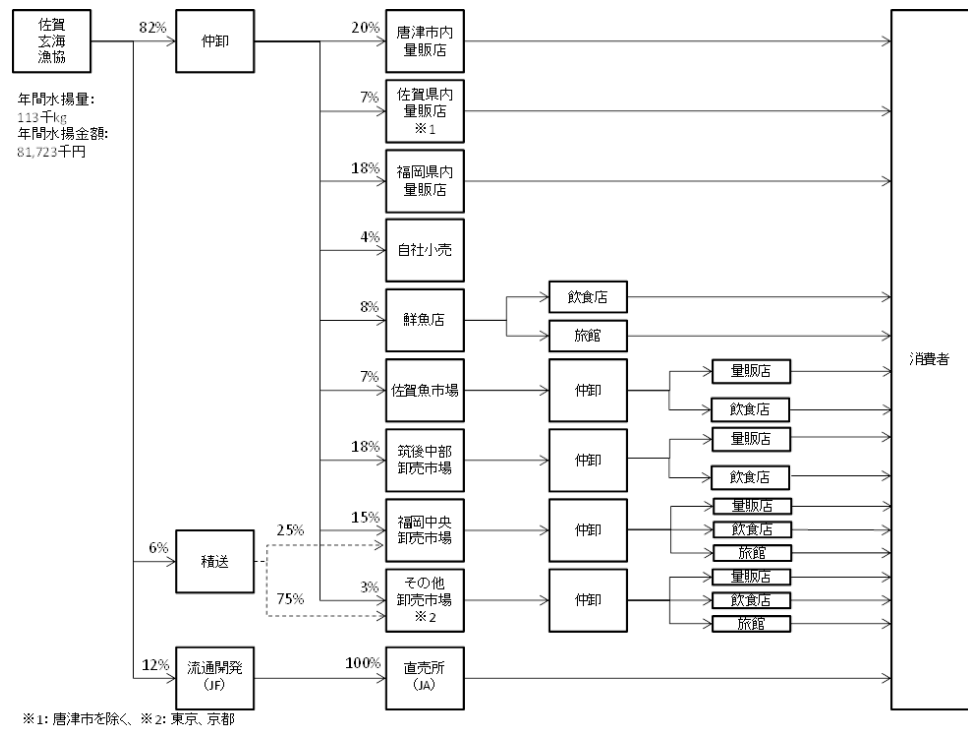
○流通

- ・佐賀県玄海地区の沿岸漁業による漁獲物（活魚・鮮魚）は、佐賀玄海漁業協同組合が開設・運営する唐津港沿岸物市場（以下玄海漁協魚市場）、あるいは福岡県や長崎県等の市場に集荷され、セリが行われている。
- ・そのうち、玄海漁協魚市場は、平成22年に高度衛生管理型の水産卸売市場として整備されており、全国的に見ても、高いポテンシャルを有したものとなっている。
- ・玄海漁協魚市場でのセリは日に2回実施されており、1番ゼリは早朝3時30分、2番ゼリは5時30分に行われる。定置網等については、水揚げから一時間後にはセリにかけられるなど、基本的に水揚げ当日にセリにかけられることから鮮度は高く評価されている。しかし、鮮度の面で高く評価されている一方で、さらなる販路拡大や流通エリアの拡大に向け

ては、スラリーアイスの導入など、遠方への輸送にも対応できる鮮度保持手法の検討が必要となる。

- ・ 玄海漁協魚市場の取扱額は約 8 億円、玄海地区の鮮魚・活魚の水揚げに対する集荷率は 43%となっている。このように、集荷率の低迷・価格形成力の低下による魚価の低迷が問題となっており、仲買からは取扱額及び集荷率の向上、漁業者からは価格形成力の強化による魚価の向上が強く求められている。このため、令和 4 年度に玄海漁協魚市場と高串魚市場の統合を実施したが、引き続き集荷率の向上等による価格形成力の強化が必要とされている。また、値崩れ等を起こさないよう、漁協による買い支えを行うとともに、漁協直営飲食施設等でのさらなる販売力強化が必要となってくる。
- ・ 「呼子のイカ」としてブランド化されているケンサキイカは漁獲量が年々減少している。ケンサキイカ以外の魚種については、消費者への訴求力に乏しく、新たなブランド魚種や新たなコンテンツの創出が求められている。
- ・ これまで、各漁協及び行政等関係機関は連携して、地元でのイベント開催や、首都圏等大消費地への販促活動を行い、玄海地区水産物の流通拡大に努めており、首都圏の飲食店での利用が拡大するなど、一定の成果は得られている。
- ・ 一方、佐賀県内でも佐賀地区（佐賀市、小城市、鳥栖市等）の小売店や飲食店では、歴史的に商圈が分断されていたことから、本県玄海地区の水産物の流通が少ない。しかしながら、他産地との競合が避けられること、同じ佐賀県内であるため消費者への訴求力は高いこと、輸送や営業にかかるコストが低いこと、世帯当たりの水産物の消費が多く、特に玄海地区の主要魚種であるタイの消費は日本一となっていることなどから、佐賀地区は、玄海地区水産物の有力な販売先となるポテンシャルを持っている。
- ・ このため、これまでの大消費地向けに加え、佐賀地区に対しても販促活動を行い、販路拡大を行う必要がある。

図表 1：主要魚種（マダイ）の流通動向



(平成 26 年度玄海流通マーケティング基礎調査)

図表 2：主要魚種の水産物消費量

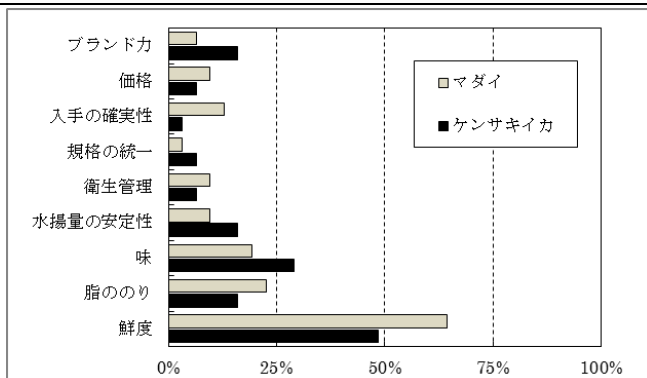
項目	鮮魚		たい		あじ		ぶり	
	金額(円)	数量(g)	金額(円)	数量(g)	金額(円)	数量(g)	金額(円)	数量(g)
全国	37,645	17,268	1,047	432	964	663	2,878	1,348
佐賀市	33,239	17,379	1,901	1,165	1,618	1,299	3,281	1,473
佐賀市順位	42	25	5	1	7	5	22	25

・主要魚種の水産物消費量（家計調査（二人以上の世帯）、品目別都道府県庁所在地及び政令指定都市（令和4年～令和6年平均）（家計調査）

○玄海地区産魚介類の評価

- ・平成 26 年度に県が行なったアンケート調査によると、玄海地区水産物について、鮮度面の評価は総じて高い。
- ・一方、ブランド力が弱く、「玄界灘産」のイメージや鮮度・品質等を活用できていない点、価格訴求力が低い点、入手の確実性に欠ける点、箱あたり数量やサイズ、施氷等の規格が一定でない点などが課題として浮かび上がった。

図表 3：流通関係者等による玄海地区主要水産物に関するアンケート調査結果

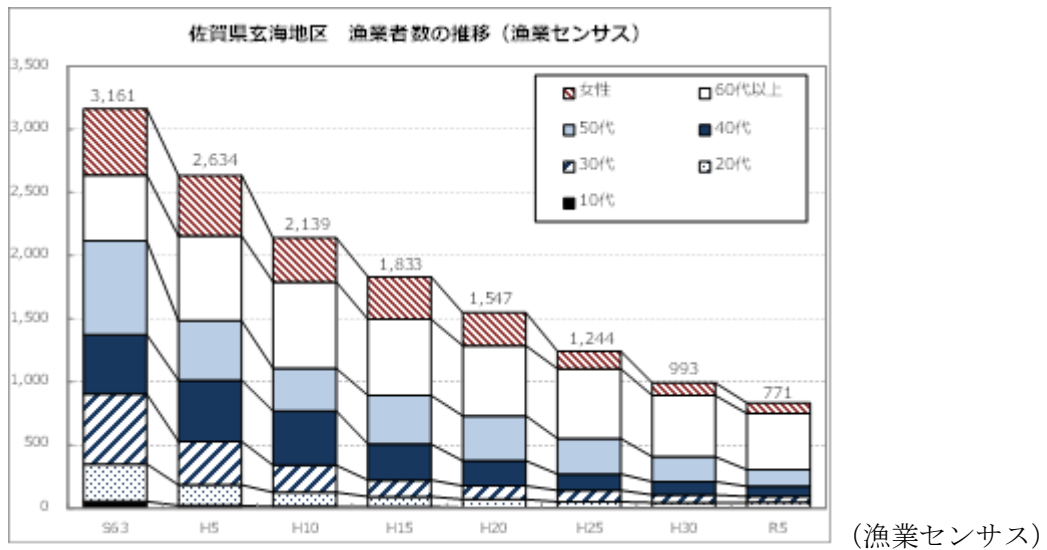


- ・玄海産水産物の評価できる点について、唐津産水産物を取り扱う、流通業者、飲食店、小売店等に対し、アンケートを実施（あてはまるもの全て回答）
(平成 26 年度玄海流通マーケティング基礎調査)

○玄海地区における漁業者数の推移

- ・厳しい漁家経営を反映し、玄海地区における漁業者数は、昭和 63 年には 3,161 名であったが、平成 30 年には 993 名、令和 5 年には 771 名と、4 分の 1 程度にまで減少している。
(漁業センサス調べ)
- ・広域再生委員会を構成する各漁協の組合員数の合計についても、佐賀玄海漁協が合併した平成 24 年では正准合わせ 1,477 名であったが、平成 28 年では 1,228 名、令和元年では 740 名、令和 6 年では 689 名と減少している。

図表4：玄海地区における漁業者数の推移



○SWOT分析による玄海地区産水産物の市場環境整理

- ・唐津産水産物の現状評価をもとに、玄海地区産水産物の市場環境、立ち位置についてSWOT分析を用いて整理を試みた。

図表5：SWOT分析による玄海地区産水産物の市場環境整理

	好影響	悪影響
内部要因	強み (Strength) ・水産の街、九州有数の産地市場 ・漁場が近い (輸送コストが低い) ・水産物の鮮度が高い ・大消費地に近い ・高度衛生管理型の魚市場	弱み (Weakness) ・佐賀地区における流通が少ない ・市場の集荷率が低い ・出荷品のサイズ規格や施氷の不徹底 ・漁業者の高齢化、担い手の不足、それに伴う水揚量の減少 ・営業にかけるリソースの不足
	機会 (Opportunity) ・「地方創生」との連動 ・福岡へのアクセスがよい ・唐津市内飲食店の、ミシュランガイドへの掲載 ・観光地としての高い知名度 ・外国人観光客の増加	脅威 (Thread) ・唐津市、伊万里市等、地元消費人口の減少 ・水産物消費の減少 (中食・外食需要の拡大) ・水産物流通構造の変化 (量販店による価格形成) ・九州北部 (玄界灘) における競合産地が多数 ・資源量変動、気候変動による魚種・漁獲量の変化 ・自由貿易の進展による価格下落

(平成26年度玄海流通マーケティング基礎調査)

(2) その他の関連する現状等

○地元観光業

- ・唐津市は、国の天然記念物にも指定されている「七ツ釜」や、日本三大松原の一つ「虹ノ松原」をはじめ、自然豊かな観光地として認識されている。また、歴史の街としても知られており、「唐津城」や「名護屋城跡地（現在は名護屋城博物館）」も有名である。祭り期間の3日で延べ60万人以上が訪れる「唐津くんち」や「呼子の大綱引き」など、イベントも多く開催されている。また、中心的な観光地である呼子地区では、呼子のイカ料理や呼子朝市でのふれあいを求めて、多くの観光客が訪れている。
- ・伊万里市は、日本を代表する焼き物として高い評価を受ける名産「伊万里焼」の窯元が集まる「大川山内」では、焼き物と古い街並みを楽しむ観光客でにぎわっている。他にも、西日本で生産量日本一の「伊万里梨」や良質な「伊万里牛」等の魅力的な観光資源に恵まれている。
- ・玄海町は、日本の棚田百選、恋人の聖地に選ばれた「浜野浦の棚田」「わくど岩」「トリカ崎」などの名勝地、「海上釣り堀」「玄海エネルギーパーク」「玄海海上温泉『パレア』」などの観光スポット、「マダイ」「カキ」「佐賀牛」などを始めとする特産品により、多くの観光客を呼び込んでいる。
- ・唐津市の観光客数は、年間294万人（令和4年）である。そのうち宿泊が44万人、日帰りが250万人と、日帰り観光客の割合が大きい。また、日帰り観光客の観光消費額は年間180億円であるが、内訳で最も多いのは飲食費であり64億円となっている。このように、唐津市に訪れる観光客の多くが日帰りで呼子のイカを楽しんでいることは統計からも裏付けられる。

○玄海地区における浜プランの策定状況

- ・広域再生委員会を構成する漁協のうち、佐賀玄海漁協は支所ごとに8つ、その他の4漁協はそれぞれ1つずつ、計12の地域水産業再生委員会を立ち上げ、平成26年度及び27年度に「浜の活力再生プラン」を策定し、「漁業収入の向上並びに漁業コストの削減による所得向上10%を目標」にそれぞれのプランに基づき所得向上に向けて取り組んだ。
- ・さらに、平成31年度及び令和2年度に佐賀玄海漁協の支所ごとにあった8つの地域水産業再生委員会を1つに統合し、その他の4漁協はそれぞれ1つずつ、計5つの「浜の活力再生プラン（第2期）」を策定し、「漁業収入の向上並びに漁業コストの削減による所得向上10%を目標」に加えて、各地区のサブ目標を設定し、それぞれのプランに基づき所得向上に向けて取り組んだ。
- ・令和6年度及び令和7年度からは「浜の活力再生プラン（第3期）」を策定し、それぞれのプランに基づき引き続き所得向上に向けて尽力している。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

これまでそれぞれが策定した「浜の活力再生プラン（第3期）」の取組に加え、各地域が連携することで玄海地区をより強い産地とし、さらに傘下漁業者の漁家経営の改善を目指すため、「浜の活力再生広域プラン（第3期）」を策定し、以下の取組を行う。

○集荷機能及び市場機能強化

○海業推進等による販売流通機能の強化

○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成

これらの目標達成に向けて上記項目ごとに取り組みを進めることとし、漁業者の所得向上、新規漁業者の確保並びに新規雇用の拡大を図り、地域の活性化を図る。

○集荷機能及び市場機能強化

- ・玄海漁協魚市場への集荷率を向上させるために高串魚市場を玄海漁協魚市場に統合したが、長時化や燃油高騰による出漁控えが影響し、玄海地区全体の水揚げ量が減ったこともあり、集荷率は43%と依然として低迷している。そのため、玄海漁協魚市場における価格形成力、安定供給力は低下し、魚価の下落、玄海地区産水産物のシェアの低下、仲買の減少、ブランド力の低下等が危惧されており、その課題を解決するべく、仲買からは取扱額及び集荷率の向上、漁業者からは価格形成力の強化による魚価の向上が引き続き強く求められている。このことから、集荷率を向上させるために以下の取組を行う。

▽集荷機能の強化

- ① 玄海漁協魚市場における新たな集荷方法について、具体的な導入可能性や効果を検証し、実施に向けて検討を行う。
- ② 県東部地区の中核的な水揚港である唐房漁港へ浮棧橋の整備し、集荷機能の強化を図る。
- ③ 玄海漁協魚市場との統合により鮮魚の取引を停止した高串魚市場については、集荷率向上に繋がるような活魚水槽等残存施設の有効活用を検討する。

- ④ 玄海地区の定置網漁業等の安定的な操業は、玄海漁協魚市場における集荷量の安定のための必須条件であるため、定置網漁業等におけるクロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行い、定置網漁業等の安定操業と市場への供給体制を強化する。

▽市場機能の強化

- ① 玄海漁協魚市場における運営体制について、現状の課題を整理し、効率的かつ持続可能な体制へと見直すための検討を行う。
- ② 電子入札システムを市場に導入することで、業務の効率化と魚価の向上を図る。
- ③ 玄海漁協魚市場でのスラリーアイス等、機器導入による鮮度保持能力と魚価の向上を図る。
- ④ 真珠養殖業については、引き続き全国団体との連携により、玄海地区産真珠の単価向上及び品質管理の高度化を図る。

○海業推進等による販売流通機能の強化

- ・これまで、各漁協は佐賀玄海漁協を中核とし、地元玄海地区及び大消費地である首都圏等を中心として販売促進活動を行ない、新たな取引先を獲得するなど一定の成果を得てきた。
- ・しかし、玄海地区水産物の販売先として大きなポテンシャルを持つ佐賀地区については、未だ、流通シェアは小さい。
- ・そこで、これまで県と協力し取り組んできた玄海地区水産物のブランド化（唐津ん魚）による訴求力向上の取組を継続するとともに、地元玄海地区及び大消費地への販売促進活動の継続並びに佐賀地区の市場開拓を引き続き行っていく中で、新たに佐賀地区の飲食店等をターゲットとした流通ルートの確立及び販売促進活動の強化を図る。
- ・また、海業推進としては、呼子地区での漁協直営飲食施設の整備や漁業体験コンテンツの造成によって、漁協主体の販売拠点と流通機能を強化し、玄海地区への訪問客の増加を図る。
- ・さらに、玄海漁協魚市場周辺で直売イベントを定期開催することで玄海地区の賑わい創出、水産物の消費拡大を図る。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

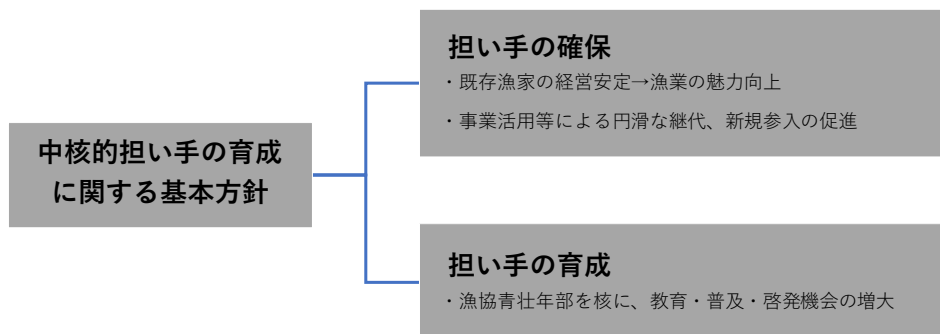
- ① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成

- ・担い手の確保は、職業としての漁業の魅力向上が基本となるため、漁業コスト削減による漁家経営の改善や共同化・機械化等による就労環境改善を図る。
- ・また、新規就業者（漁家の子弟も含む）への各種支援を実施し、円滑な事業継承や外からの参入を促すとともに、外からの受け入れ体制の整備を行う。
- ・上記漁業コスト削減や新規就業者への対策・支援については、漁業人材育成総合支援事業（国）、佐賀県新規漁業者就業者支援事業（県）、明日の漁業者チャレンジ支援事業（市）などの事業を十分活用することで取組を促進する。
- ・担い手の育成は、若手漁業者が加入する漁協青壮年部を中心組織と位置づけ、その中で、教育・普及・啓発（各種研修への参加、小中学校等への出前授業、漁業体験等）の機会を増やす。
- ・これにより、若手漁業者自らの資質や意識向上と同時に、当地区水産業・水産物の魅力を外に発信することで、当地区水産物のPR、将来の担い手確保も期待される。

□中核的担い手の育成の基本方針まとめ



(3) 資源管理に係る取組

各地域水産業再生委員会の「浜の活力再生プラン」と同様に、佐賀県資源管理指針及び漁業種ごとに策定されている資源管理協定の確実な遵守により履行する。

(主な取組)

- ・佐賀県資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施による資源保護に取り組む。(休漁期間の設定、網の目合い設定など)

(佐賀県におけるケンサキイカ、スルメイカ等に関する小型いか釣り漁業の資源管理協定、佐賀県玄海地区におけるマアジ、サワラ、ヒラメ、ケンサキイカ等の定置網漁業に関する資源管理協定、佐賀県唐房地区におけるマダイ、イサキ等の吾智網漁業に関する資源管理協定、佐賀県大浦浜地区におけるマダイ、イサキ等の吾智網漁業に関する資源管理協定、佐賀県呼子地区におけるケンサキイカ、ブリ、マダイ、サワラ等に関する一本釣り漁業の資源管理協定、佐賀県加唐島地区におけるケンサキイカ等に関する一本釣り漁業の資源管理協定、佐賀県鎮西地区におけるブリ、マダイ、サワラ等に関する一本釣り漁業の資源管理協定、佐賀県高串地区におけるケンサキイカ、ブリ、マダイ、サワラ等に関する一本釣り漁業の資源管理協定、佐賀県呼子地区におけるクエ、キンメダイ等の延縄漁業に関する資源管理協定、佐賀県馬渡島地区におけるクエ、アカムツ等の延縄漁業に関する資源管理協定、佐賀県唐津湾地区におけるヒラメ、クルマエビのえび漕網漁業に関する資源管理協定、佐賀県高串地区におけるヒラメ、クルマエビ等のえび漕網漁業に関する資源管理協定、佐賀県肥前地区におけるカタクチイワシ等の船びき網漁業に関する資源管理協定、佐賀県伊万里湾地区におけるカタクチイワシ等の船びき網漁業に関する資源管理協定、佐賀県鎮西地区におけるウニ類、サザエ、アワビ類等の採貝・採藻漁業に関する資源管理協定)

- ・養殖業においては持続的養殖生産確保法に基づく漁場改善計画を策定し、漁場環境の保存に努め、持続的な養殖生産の確保を図る。

(佐賀玄海漁業協同組合肥前統括支所真珠養殖業漁場改善計画、仮屋湾を美しくする計画、外津浦を豊かにする計画、名護屋浦を美しくする計画、伊万里湾を美しくする計画、伊万里湾カキ養殖場を美しくする計画、片島を美しくする計画)

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和8年度）

取組内容	<p>○集荷機能及び市場機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海漁協魚市場における鮮魚集荷率を向上させるために集荷方法及び伊万里湾岸地域からの集荷体制構築について、関係漁業者、運搬業者等との協議を引き続き実施する。 ・県東部地区の中核的な水揚港である唐房漁港において、浮棧橋を整備し漁港機能を高度化することで、玄海漁協魚市場への集荷力の強化を図る。 ・機能統合後の高串魚市場跡地における活魚ケンサキイカ集荷基地及びウニ類の畜養基地としての効率的な運営体制について協議する。 ・定置網漁業等を営む漁業者は、定置網漁業等の安定的操業を図るため、定置網等の漁船漁業においてクロマグロの混獲が見られた際、魚捕りの浮子を手釣で下げるなどをし、表層付近を遊泳するクロマグロを網外へ放流し、合わせてクロマグロとコシナガの識別に関する資料配布など混獲を回避するための取組を行う。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・玄海漁協魚市場における電子入札システムの導入について、漁業者、仲買等と協議を行う。 ・玄海地区各所に整備管理している製氷施設の管理システム統一による一括管理について、運用体制を検討する。 ・玄海漁協魚市場へのスラリーアイスの活用事例を収集する。 ・真珠養殖業について、全国団体と連携し、真珠の単価向上と品質管理の高度化に取り組む。 <p>○海業推進等による販売流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元玄海地区及び大消費地である首都圏等を中心として、販売促進活動を行ない、新たな取引先の獲得に努める。 ・併せて、佐賀地区に向け、新たに仲買との提携による流通ルートの開拓を行うとともに、佐賀地区に向けた販売促進活動を強化する。 ・呼子地区にて、漁協直営飲食施設の整備を実施する。 ・また、玄海漁協魚市場周辺において、販促イベントの開催及び海業支援施設（直売施設）の整備について検討を開始する。 ・海業推進として、漁業体験コンテンツの掘り起こしを実施する。 <p>○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～2期プランの取組で整備した新規就業者の受け入れ体制をベースとして、新たな受け入れ可能な漁家を把握する。 ・漁業就業支援フェア等のイベントに参加し、地区外からの就業者確保にも積極的に取り組む。 ・漁協青壮年部による教育・普及・啓発活動（各種研修への参加、小～大学等への出前授業等）を強化する。 ・また、玄海地区水産物のPRのために漁協青壮年部を中心に即売会等のイベントを開催する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） ・水産業競争力強化漁港機能増進事業（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（実証調査）（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・海洋環境の変化に対応した漁場保全緊急対策事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営構造改善事業（国） ・ 経営体育成総合支援事業（国） ・ 水産基盤整備事業（国） ・ 唐津市燃油高騰緊急対策事業（市） ・ 唐津市水産業活性化支援事業（市） ・ 玄海水産物流通機能強化支援事業（県） ・ 玄海町第一次産業補助金（放流）（町） ・ 玄海町漁業次世代人材投資事業（町） ・ 玄海町親元就業者支援事業（町）
--	--

2年目（令和9年度）

取組内容	<p>○集荷機能及び市場機能の再編強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 玄海漁協魚市場での効率的な集荷・運営体制並びに高串魚市場跡地の活魚ケンサキイカ集荷基地及びウニ類の蓄養基地としての運用体制案を策定する。 ・ 定置網漁業等を営む漁業者は、クロマグロの混獲を回避するための取組を継続する。 ・ 玄海地区各所に整備管理している製氷施設を一括管理するため、管理システムの整備を実施する。 ・ 市場に電子入札システムを導入し、業務の効率化と魚価向上を図る。 ・ 玄海漁協魚市場でのスラリーアイス導入について活用試験を計画する。 ・ 真珠養殖業について、全国団体と連携し、真珠の単価向上と品質管理の高度化に取り組む。 <p>○海業推進等による販売流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、地元玄海地区及び大消費地である首都圏等を中心として、販売促進活動を行ない、新たな取引先の獲得に努める。 ・ 併せて、佐賀地区に向け、新たに仲買との提携による流通ルートの開拓を行うとともに、佐賀地区に向けた販売促進活動を強化する。 ・ 呼子地区における漁協直営飲食施設の整備を完了し、当該施設を活用することで玄海地区水産物の消費拡大を図る。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・また、玄海漁協魚市場周辺において、販促イベントの開催及び海業支援施設の整備について協議会を設立する。 ・漁業体験コンテンツの商品化と磨き上げを行う。 <p>○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ先となる漁業者は、漁業就業支援フェア等のイベントに参加し、地区外からの就業者確保にも積極的に取り組む。 ・中核的担い手の育成について適宜課題を整理し、佐賀県漁業就業者支援協議会と連携し、受け入れに必要な施設や漁船等のハード整備、研修制度の活用によるソフト支援を活用することで体制整備を行う。 ・漁協青壮年部は教育・普及・啓発活動（各種研修への参加、小～大学校等への出前授業等）及び即売会等のイベントを継続して実施する。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） ・水産業競争力強化漁港機能増進事業（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（実証調査）（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・海洋環境の変化に対応した漁場保全緊急対策事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営構造改善事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・唐津市燃油高騰緊急対策事業（市） ・唐津市水産業活性化支援事業（市） ・玄海水産物流通機能強化支援事業（県） ・玄海町第一次産業補助金（放流）（町） ・玄海町漁業次世代人材投資事業（町） ・玄海町親元就業者支援事業（町）

3年目（令和10年度）

取組内容	<p>○集荷機能及び市場機能の再編強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海漁協魚市場の運営体制について適宜見直しを行う。 ・定置網漁業等を営む漁業者は、クロマグロの混獲を回避するための取組を継続する。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・高串魚市場跡地の活魚ケンサキイカ集荷基地及びウニ類の蓄養基地としての運用について、適宜見直しを実行する。 ・玄海漁協魚市場でのスラリーアイス活用試験を行う。 ・真珠養殖業について、全国団体と連携し、真珠の単価向上と品質管理の高度化に取り組む。 <p>○海業推進等による販売流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地元玄海地区及び大消費地である首都圏等を中心として、販売促進活動を行ない、新たな取引先の獲得に努める。 ・併せて、佐賀地区に向け、新たに仲買との提携による流通ルートの開拓を行うとともに、佐賀地区に向けた販売促進活動を強化する。 ・呼子地区に整備した漁協直営飲食施設や漁業体験コンテンツ、「唐津ん魚」取扱店（飲食店、小売店、宿泊施設）が連携し、イベントや利用促進キャンペーンを開催することで玄海地区水産物の消費拡大を図る。 ・また、玄海漁協魚市場周辺において、販促イベントの開催及び海業支援施設の整備について協議会で協議する。 <p>○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ先となる漁業者は、漁業就業支援フェア等のイベントに参加し、地区外からの就業者確保にも積極的に取り組む。 ・中核的担い手の育成について適宜課題を整理し、佐賀県漁業就業者支援協議会と連携し、受け入れに必要な施設や漁船等のハード整備、研修制度の活用によるソフト支援を活用することで体制整備を行う。 ・漁協青壮年部は教育・普及・啓発活動（各種研修への参加、小中学校等への出前授業等）及び即売会等イベントを継続して実施する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） ・水産業競争力強化漁港機能増進事業（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（実証調査）（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・海洋環境の変化に対応した漁場保全緊急対策事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営構造改善事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国）

	<ul style="list-style-type: none"> ・水産基盤整備事業（国） ・唐津市燃油高騰緊急対策事業（市） ・唐津市水産業活性化支援事業（市） ・玄海水産物流通機能強化支援事業（県） ・玄海町第一次産業補助金（放流）（町） ・玄海町漁業次世代人材投資事業（町） ・玄海町親元就業者支援事業（町）
--	--

4年目（令和11年度）

取組内容	<p>○集荷機能及び市場機能の再編強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海漁協魚市場の運営体制について適宜見直しを行う。 ・定置網漁業等を営む漁業者は、クロマグロの混獲を回避するための取組を継続する。 ・高串魚市場跡地の活魚ケンサキイカ集荷基地及びウニ類の蓄養基地としての運用について、適宜見直しを実行する。 ・玄海漁協魚市場でのスラリーアイス導入の検討を行う。 ・真珠養殖業について、全国団体と連携し、真珠の単価向上と品質管理の高度化に取り組む。 <p>○海業推進等による販売流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地元玄海地区及び大消費地である首都圏等を中心として、販売促進活動を行ない、新たな取引先の獲得に努める。 ・併せて、佐賀地区に向け、新たに仲買との提携による流通ルートの開拓を行うとともに、佐賀地区に向けた販売促進活動を強化する。 ・呼子地区に整備した漁協直営飲食施設や漁業体験コンテンツ、「唐津ん魚」取扱店（飲食店、小売店、宿泊施設）が連携し、イベントや利用促進キャンペーンを継続することで玄海地区水産物の消費拡大を図る。 ・玄海漁協魚市場周辺において、販促イベントを試験的に開催するとともに、海業推進に必要な施設整備等について引き続き協議を行う。 <p>○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラン最終年度での目標達成に向け、これまでの取組を振り返り、最終年に向けた見直しを実行する。 ・受け入れ先となる漁業者は、漁業就業支援フェア等のイベントに参加し、地区外からの就業者確保にも積極的に取り組む。 ・中核的担い手の育成について適宜課題を整理し、佐賀県漁業就業者支援協議会と連携し、受け入れに必要な施設や漁船等のハード整備、研修制度の
------	--

	<p>活用によるソフト支援を活用することで体制整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協青壮年部は教育・普及・啓発活動（各種研修への参加、小～大学校等への出前授業等）及び即売会等イベントを継続して実施する。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） ・水産業競争力強化漁港機能増進事業（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（実証調査）（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・海洋環境の変化に対応した漁場保全緊急対策事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営構造改善事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・唐津市燃油高騰緊急対策事業（市） ・唐津市水産業活性化支援事業（市） ・玄海水産物流通機能強化支援事業（県） ・玄海町第一次産業補助金（放流）（町） ・玄海町漁業次世代人材投資事業（町） ・玄海町親元就業者支援事業（町）

5年目（令和12年度）

取組内容	<p>○集荷機能及び市場機能の再編強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海漁協魚市場の運営体制について適宜見直しを行う。 ・定置網漁業等を営む漁業者は、クロマグロの混獲を回避するための取組を継続する。 ・高串魚市場跡地の活魚ケンサキイカ集荷基地及びウニ類の蓄養基地としての運用について、適宜見直しを実行する。 ・玄海漁協魚市場でのスラリーアイスを導入する。 ・真珠養殖業について、全国団体と連携し、真珠の単価向上と品質管理の高度化に取り組む。 <p>○海業推進等による販売流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地元玄海地区及び大消費地である首都圏等を中心として、販
------	---

	<p>売促進活動を行ない、新たな取引先の獲得に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併せて、佐賀地区に向け、新たに仲買との提携による流通ルートの開拓を行うとともに、佐賀地区に向けた販売促進活動を強化する。 ・呼子地区に整備した漁協直営飲食施設や釣り堀など漁業体験コンテンツ、「唐津ん魚」取扱店（飲食店、小売店、宿泊施設）が連携し、イベントや利用促進キャンペーンを継続することで玄海地区水産物の消費拡大を図る。 ・玄海漁協魚市場周辺における具体的な海業推進計画を協議会で策定し、市場周辺の販促イベントを継続するとともに、内容の磨き上げを行う。 <p>○新規漁業就労者の確保及び中核的漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに、本取組で各種事業を活用した漁家の経営状況を調査し、その効果を検証する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） ・水産業競争力強化漁港機能増進事業（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（実証調査）（国） ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・海洋環境の変化に対応した漁場保全緊急対策事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・漁業経営構造改善事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・唐津市燃油高騰緊急対策事業（市） ・唐津市水産業活性化支援事業（市） ・玄海水産物流通機能強化支援事業（県） ・玄海町第一次産業補助金（放流）（町） ・玄海町漁業次世代人材投資事業（町） ・玄海町親元就業者支援事業（町）

(5) 関係機関との連携

・行政（県、市）、系統団体（信漁連、共済組合等）と密に情報共有を行い、連携を強化するとともに、水産物に関連する地元の流通、小売、飲食店・旅館など関連する業者とも流通・加工・販売に関する情報を適宜共有し、連携を強化する。

○共同利用施設の機能強化・再編

・全体計画は県水産課、流通・貿易課、関係市町と十分協議する。また、地区再生委員会、広域再生委員会、各市町の水産振興関連協議会等の既存組織を活用し、関係者との協議も幅広く実施する。

○漁協魚市場の流通・加工・販売体制の強化

・全体計画は県水産課、流通・貿易課、関係市町と十分協議する。また、地区再生委員会、広域再生委員会、産地協議会、各市町の水産振興関連協議会等の既存組織を活用し、流通・加工・販売の関係者との協議も幅広く実施する。

○中核的担い手の育成

・後継者や新規就業者支援の事業活用にあたって県水産課、佐賀県漁業就業者支援協議会と連携する。
・その他、全漁連が実施する主に漁協職員を対象とした各種支援、研修等を積極的に活用し、漁協の組織体制の強化を図る。

(6) 他産業との連携

・行政（県、市）研究機関と漁業者が連携し、位置情報と合わせた漁場のデータ（水温、潮流等）を収集し、結果をもとに漁場の設定など、効率的な操業体制の構築を検討する。
・県産品全体の販売促進に関する補助事業があれば適宜活用し、その過程で、県内外の農林業、商工業との連携を図る。
・また、予想される地区内へのヒト・モノ・カネの流入を好機と捉え、各種イベントによる地区水産物のPRや体験漁業、ブルーツーリズムの取組を観光産業と連携して実施する。

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

<p>○玄海漁協魚市場の集荷率 集荷機能の強化により、玄海漁協魚市場の集荷率の向上を目標とした。</p> <p>○主要魚種の単価（ケンサキイカ、マダイ） 集荷機能の強化、流通機能の強化により、主要魚種の単価を向上することを目標とした。</p> <p>○新規就業者数 漁業経営の改善により新規就業者数が増加し、水産業及び地域の活性化が図られるため、新規就業者数の増加を目標とした。</p>

(2) 成果目標

玄海漁協魚市場の集荷率 (6%の向上)	基準年	令和6年度：43%
	目標年	令和12年度：49%
主要魚種の単価 (ケンサキイカ) (5%の向上)	基準年	令和2～6年度の5中3平均：1,592円/kg
	目標年	令和12年度：1,672円/kg
主要魚種の単価 (マダイ) (5%の向上)	基準年	令和2～6年度の5中3平均：1,087円/kg
	目標年	令和12年度：1,141円/kg
新規就業者数	基準年	令和2～6年度の累計：20名
	目標年	令和8～12年度の累計：24名

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>○玄海漁協魚市場の集荷率 基準：佐賀県玄海地区で水揚げされた金額のうち、玄海漁協魚市場へ出荷された金額を集荷率として扱う。 目標：玄海地区の海面漁業で水揚げされ、他市場へ出荷された鮮魚のうち1.1億円分の増加を目標とする。 妥当性：今回の取組で、集荷機能及び市場機能を強化することにより、玄海漁協魚市場における価格形成力の強化により単価が上昇し、県外他市場等へ出荷されているものが玄海漁協魚市場へと出荷されることで、目標の達成を見込む。</p> <p>(集荷率の算出方法)</p>

- ・玄海漁協魚市場における水揚げ額 7.8 億円 (R6)
- ・玄海地区全体の海面漁業による水揚げ額 18.2 億円 (農林水産統計年報より)
- ・玄海漁協魚市場の集荷率 43 % (7.8 億円/18.2 億円)
- ・取組後の玄海漁協魚市場の取引増加額 1.1 億円
- ・取組後の玄海漁協魚市場における水揚げ額 8.9 億円 (7.8 億円+1.1 億円)
- ・取組後の玄海漁協魚市場の集荷率 49 % (8.9 億円/18.2 億円)

玄海地区全体の海面漁業の水揚げ額の内訳 (鮮魚・活魚)

水揚先	金額 (億円)
玄海漁協魚市場	7.8
高串支所魚市場	0.3
他市場	7.0
直接販売	1.6
その他	1.5
合 計	18.2

(浜プランより推定)

○主要魚種の単価 (ケンサキイカ、マダイ)

基準：玄海漁協魚市場における単価 (R2～R6年度の5中3平均値)

目標：5%の向上を目標とする

妥当性：本広域浜プランの取組、つまり①市場への集荷方法が改善されること、②市場の運営体制が見直されること、③市場に電子入札システムが導入されること、④スラリーアイス等が導入されること、⑤流通機能の強化により出荷先が確保されること、以上5点により、玄海地区水産物の需要の増加と玄海漁協魚市場に価格形成力の強化が図られることにより、単価向上の目標達成を見込む。
なお、対象としている2魚種について、単価の変動が大きいことから、基準値は過去5か年のうち、最小値と最大値を除いた3か年平均とする。

参考：玄海漁協魚市場における主要魚種 (ケンサキイカ、マダイ) の単価の推移と基準値

(円/kg)

	R2	R3	R4	R5	R6	基準値 (5中3平均)
ケンサキイカ	1,317	<u>1,411</u>	<u>1,514</u>	2,151	<u>1,851</u>	1,592

マダイ	488	<u>981</u>	<u>1,107</u>	1,314	<u>1,173</u>	1,087
-----	-----	------------	--------------	-------	--------------	-------

参考：玄海漁協魚市場における主要魚種（ケンサキイカ、マダイ）の取扱量（R6）

ケンサキイカ（鮮魚）※		マダイ（鮮魚・活魚）	
取扱量 （トン）	取扱金額 （千円）	取扱量 （トン）	取扱金額 （千円）
23.0	38,659	138.6	86,868

※玄海漁協魚市場では、ケンサキイカ活魚は扱われない。

○新規就業者数

基準：本地区（広域浜プラン関係地区）における新規就業実績（R2～R6年度）

目標：R8～R12年度における新規就業者数を24名とする。

妥当性：各種施策による新規就業者の意欲の高まりにより、目標値の達成を見込む。なお、本目標値の達成により、以下に示す漁業就業者数の当地区における目標値の達成も見込む。漁業就業者数は、R2年度11名、R3年度4名、R4年度1名、R5年度1名、R6年度3名からR8年度4名（R6年度から1名増）、R9年度4名（R8年度と同水準）、R10年度5名（R9年度から1名増）、R11年度5名（R10年度と同水準）、R12年度6名（R11年度から1名増）の増加を見込む。

（漁業就業者数の目標値の算定）

- ・R5年の本地区における漁業就業者数 730名（漁業センサス2023）
- ・S63-R5における漁業就業者数の平均減少率 18.2%/5年（漁業センサス）
- ・R12年度における漁業就業者数の見込み 547名（減少率からの試算）
- ・R12年度における漁業就業者数の目標 571名（見込みより24名の増）

※以上のとおり、5年で18.2%という漁業就業者数の減少に一定の歯止めをかけ、目標値をR12年度で571名と設定する。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
水産業競争力強化緊急施設整備事業(国)	内容：共同利用施設の新設・改築、既存施設の撤去に対する支援 関連性：海業支援施設、共同利用施設の再編（新設、撤去）や機能強化（改築）で活用

水産業競争力強化漁港機能増進事業(国)	内容：競争力のある生産・流通体制を構築するために必要となる漁港施設等の整備に対する支援 関連性：漁港施設の整備で活用
浜の活力再生・成長促進交付金事業(国)	内容：共同利用施設の新設・改築、漁港漁村の就労環境改善・強靱化、海業推進に必要な整備に対する支援 関連性：共同利用施設の再編（新設）や機能強化（改築）で活用、海業施設の整備で活用
広域浜プラン緊急対策事業（実証調査）（国）	内容：広域浜プランに基づくその実行に必要な実証的な取組への支援 関連性：プラン実行に必要な情報収集や各種調査等で活用
広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）	内容：クロマグロの混獲回避の取組に対する支援 関連性：定置網漁業等の安定操業、ひいては安定的な集荷の確保に寄与
競争力強化型機器等導入緊急支援事業（国）	内容：生産性の向上、省力・省コスト化に資する機器等の導入支援 関連性：漁業コスト削減の取組で活用
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）	内容：中核的漁業者の収益向上に必要な漁船リースの取組を支援 関連性：当地区の中核的漁業者の体質強化で活用
水産業競争力強化金融支援事業（国）	内容：上記2事業活用で漁業者が借入れる資金について金利を助成する 関連性：上記2事業の活用に伴い活用
新規漁業就業者総合支援事業（国）	内容：新規就業者の確保・育成を目的とした段階に応じた支援 関連性：中核的担い手の確保・育成の取組で活用